

令和5年度 土浦市議会 会派合同行財政視察 報告書

土浦市議会議員 下村 壽郎 無所属

実施日時 : 令和6年2月4日(日)～2月6日(火)

視察先及び内容

宮崎県

2月4日 日南市: 飢肥食べあるき・町あるき事業について

2月5日 西都市: 西都古墳まつりについて

2月6日 高鍋町: 民間活力を導入したeスポーツとIT学習について



日南市飢肥城



西都市市役所



高鍋町庁舎

日南市 飫肥^{おび}食べあるき・町あるき事業について

視察日時 ; 2月4日(日) 14時～16時
場 所 : 飫肥城下町保存会(小村寿太郎記念館)
視察目的 : 飫肥城下町が国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されてから、古い街並みを活かした町おこしをどのように進めたのか視察研修して土浦市の参考とするため。
対応者 : 飫肥城下町保存会 事務局長 後藤 廣史 様

■事業概要

別紙添付資料に記載の通り。

概略

城下町飫肥のまちづくりの特徴として3つの大きな事業が挙げられる。

- (1) 飫肥城復元事業(昭和49年～)
- (2) 重要伝統的建造物群保存地区の選定(「伝建」昭和52年選定)
- (3) 本町通り(国道222号線)の拡幅計画(昭和48年事業認定)

■質疑応答

- Q : 平成31年4月～令和6年3月まで指定管理者を置かず、日南市直営にした理由を教えてください。
- A : コロナ禍以前の平成31年からの理由は、議会で否決された事が理由です。令和6年4月から飫肥城下町保存会が指定管理者となります。

■感想

3つの大きな事業が相互に補完した結果として「飫肥食べあるき・町あるき事業」へ進展したと推察します。

本町通りの商店街の人たちが昭和53年「本町通り町並研究会」を結成し、城下町に相応しい商店街を住民の力で作り上げたことが、特筆されることです。

平成20年には年間30万人ほどの観光客が訪れたが、飫肥城内の観光が中心であったことから、平成21年に城下町の風情を楽しみながら、飫肥食べあるき・町あるきへ誘導する「あゆみちゃんマップ」を考え出したことにも感心いたしました。

古い街並みを活かした町おこしをどのように進めたのか、これには飫肥城下町保存会の存在も大きいのですが、商店街の方たちや地元住民が一体となって自主的に街並みの保存をしたことによるものと推察されます。このような成功例は今後の土浦市中心市街地活性化にも役立つと考えられます。

「あゆみちゃんマップ」を購入して、食べあるき・町あるきを体験しました。歴史あるまち並がしっかりと保存され、その場に立ち城下町の風情が心に沁みました。

郷土料理を味わうことが出来た事や地場の味噌・醤油、飫肥杉細工の作品等のお土産物があり、この地の特色を活かす努力が表れた商店街でした。



小村寿太郎記念館



記念館内研修



あゆみちゃんマップ
食べあるき・町あるき



飫肥城復元



小村寿太郎侯爵生誕の地 記念碑

さいと
西都市 西都古墳まつりについて

視察日時 ; 2月5日(月)13時30分～15時
場 所 : 西都市議会事務局
視察目的 : 西都古墳まつりがまちおこしにどのように生かされているのか視察研修
して土浦市の参考とするため。
対応者 : 西都市議会議長 太田 寛文 様
議会事務局 福田 昌泰 様
商工観光課 茂又 通浩 様
観光協会 大木 隆信 様

■事業概要

別紙添付資料に記載の通り。

概略

西都古墳まつりの成り立ちの背景

西都原古墳群内には319基(令和5年末現在)にも及ぶ古墳が存在する。

陵墓地として指定された男狭穂塚・女狭穂塚を有する。

この地の地元衆は西都原を大切に奉っていた。この祭りの原型となる山稜祭は600年以前に始まった。

一方、昭和45年頃から奉納行事を中心とした古墳祭りが行われる。

昭和62年市観光課、及び市観光協会の呼びかけで地域の若者組織(青年会議所・商工会青年部・青年団体連合)が集まり、西都原にふさわしいまつりを創ろうと一致団結したところから始まります。

西都原古墳群内集落の600年以前から始まった神事を中心とした祭事の山稜祭と、昭和期から始めた奉納行事等を中心としたお祭りの古墳祭を融合して、昭和62年第一回西都古墳まつり(熊本県菊水町(現和水町)の古墳祭を参考)が開催された。

昨年で37回の開催となっている。

■質疑応答

Q : 祭りに対する市民の意識調査などはしていますか。例えば、祭りの意義・継続などについて、アンケート調査を行っていますか。(例えば市民満足度調査等で)

A : 実施してない。

Q : 祭りの観光客などが4万人との説明でしたが、市の人口が28000人と比較すれば大きなイベントです。今後についてはどのような想定をされていますか。

A : 祭りの参加者が年々減少しているのが課題である。

■感想

祭事・神事等の開催には、市民感覚として参加意識の高低差が極端に表れると思いま

すが、昭和 62 年の開催から昨年の 37 回開催までこぎつけていることは、市民の理解が最大の要因であり、同時に関係者の努力によると拝察します。国内では類を見ないほどの古墳群を奉る 600 年以前から始まったお祭りと奉納行事等を中心としたお祭りを統一させた古墳まつりは、歴史と伝統を重んじる西都市ならではのイベントであり、ますます発展する事を願います。

歴史と伝統を重んじる行事を継続する事の難しさは、土浦市においても同様であります。その町の歴史と伝統の継承は、人々の心に頼ることです。西都市の古墳まつりの運営・継続について、土浦市のイベントや町おこしの参考としたいと思います。



高鍋町 民間活力を導入した e スポーツと I T 学習について

視察日時 ; 2月6日(火)9時~11時40分
場 所 : 高鍋町議会事務局~コワーキングサロンVIVA CAGUCCI
視察目的 : e スポーツと I T 学習をどの様に結び付け、地域の活性化につなげているのか視察研修して土浦市の参考とするため。
対応者 : 高鍋町長 黒木 敏之 様
高鍋町議会議長 永友 良和 様
議会事務局 徳永 恵子 様
コワーキングサロンVIVA CAGUCCI スタッフの皆様

■事業概要

高鍋町地域おこし協力隊の松本征昂氏が町営のコワーキングサロンVIVA CAGUCCIを運営している。コワーキング施設の運営の中で、e スポーツクラブ運用の拠点としてコワーキングサロンVIVA CAGUCCIの活用と利用者のサポートをしている。

高鍋町はデジタル人材の育成を目的に「高鍋e スポーツクラブ」を立ち上げた。現在町内外の中高生9人がゲームの腕を競うe スポーツやI Tスキルを学ぶ。

■質疑応答

- Q : e スポーツとはどのような内容なのですか。
A : 良くは理解していないが、エレクトロニック・スポーツのこと。ビデオゲーム競技のことです。
Q : パソコンの性能や通信速度が重要と考えます。また、機器の更新はどのようにしているのですか。
A : 教えている生徒は、初心者なので現在は設置当初の物で対応している。生徒のスキルにより対応するのが良いがそこまでの余裕はない。

■感想

高鍋町は時代を先取りした事業を展開していたと感じます。デジタル人材の育成を目的に「高鍋e スポーツクラブ」を立ち上げた。現在町内外の中高生9人がゲームの腕を競うe スポーツやI Tスキルを学ぶ。国内の動きには、e スポーツによる高い経済効果を期待し、地域活性化に役立てる自治体も増加しているようです。岡山市や福岡市などの先進地がe スポーツ産業を積極的に後押ししています。

私はじめe スポーツとI Tスキルについて理解不足であることを痛切に感じた次第であります。

土浦市では高齢者へのスマホ講習を開催しておりますが、小中高生にはますます高度に進化するI Tに実体験してスキルアップする公的場所の設置が必要であると思います。土浦市でも高鍋町の事業を参考に提言したいと思います。

